株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

週間展望・回顧（ポンド、加ドル）

October 11, 2024

ポンド、雇用・物価データ見極め

◆ポンド、9 月雇用・物価データで追加利下げを見極め
◆ポンド、月末に予算案公表を控え関連のヘッドラインにも注意
◆加ドル、9 月 CPI 次第では大幅利下げを織り込む動きにも

予想レンジ
ポンド円　190.50-196.50 円
加ドル円　106.50-110.50 円

10 月 14 日週の展望

ポンドは来週発表予定の 9 月雇用・物価データが注目される。イングランド中銀（BOE、英中銀）の次回会合は 11 月 7 日に予定されており、9 月雇用・物価データは金融政策委員会（MPC）メンバーにとって政策判断の大きな手がかりとなる。8 月消費者物価指数（CPI）は前年比 2.2%と横ばいだったが、同コアは 3.3%から 3.6%へ、サービスは 5.2%から 5.6%に伸びが加速し、これが 9 月会合で追加利下げを見送った大きな一因となった。もっともベイリーBOE 総裁は先週、インフレに関する良好なニュースが続けば中銀は利下げのアプローチで「もう少し積極的に、かつ、もう少し活動的になることが可能だ」と述べた。

9 月英購買担当者景気指数（PMI）は製造業・サービス業ともに前月から悪化したが、依然として景気判断の分岐点とされる 50 を上回っている。英国経済は勢いこそ鈍りつつあるものの回復が続いており、景気は欧州内で堅調な部類に入っている。ただ、英政府は 30 日に発表する予算案での増税を示唆しており、税負担の拡大による景気下振れリスクが高まっている。増税規模次第では、財政赤字を巡る懸念が高まる恐れや、消費にも陰りが出てくる可能性があり、予算案関連のヘッドラインにも注目したい。

加ドルもカナダの 9 月 CPI に注目。23 日のカナダ中銀（BOC）会合では、4 会合連続での利下げが確実視されている。11 日の 9 月雇用統計や 15 日の同月 CPI がさえない結果となれば、0.50%の大幅利下げへの思惑が強まり、加ドルは売りに押されそうだ。予想より強い結果になっても、大きく上振れしない限り加ドル買いは限られ、どちらかと言うとネガティブな結果が警戒される。

8 月 CPI は前年比 2.0%と 2021 年 2 月以来の低水準となり、BOC が目標とする 2%に達した。9 月の予想は 1.9%と伸びの鈍化が続くと見込まれている。物価上昇が落ち着いていることで、BOC は積極的な利下げ姿勢継続を示唆し、経済の刺激と失業率の上昇を抑えることに注力することになりそうだ。

また、加ドルは産油国通貨という側面をもっており、中東情勢には引き続き注目が必要。イスラエルとイランの対立などを巡る中東情勢の悪化を受け、原油相場は値幅を伴った動きが続いている。中東の地政学リスクと中国当局の景気刺激策が原油相場の支えとなっているが、中東情勢への過度な警戒感や中国景気回復への期待感が和らぐと、「原油需要の低迷・過剰供給」をテーマに再び売り圧力が強まり、加ドルの上値圧迫の要因となる可能性がある。

10 月 7 日週の回顧

ポンドは前週のベイリーBOE 総裁のハト派寄り発言が重しとなるも、対ドルでは 1.30 ドル前半、対円は 192 円後半で下げ渋って値動きは限られた。加ドルは BOC の追加利下げへの思惑が上値を圧迫するなか、8 月の貿易収支が予想を上回る赤字額となったことも嫌気された。ドル／加ドルは 1.37 加ドル後半、加ドル円は 108 円割れまで加ドル安となった。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.